

## 日伊女性国際会議「女性と社会 日本とイタリア」を開催

お茶の水女子大学では、魅力ある大学院教育イニシアティブプログラムとして採択された教育プログラム「＜対話と深化＞の次世代女性リーダー育成」の一環として、去る11月23日から26日まで、イタリア大使館との協議により、東京イタリア人女性協会とイタリア文化会館との共催で、《日伊女性国際会議「女性と社会 日本とイタリア」》を11月23日から26日の3日間にわたって開催した。

日本とイタリアは、少子化、伝統的な性別役割分業規範の存続、最近の政治的背景、法律整備の問題等、多くの類似点があることからこの会議は、このように類似性のある、日伊両国の女性をめぐる状況についてさまざまな角度から比較分析を行なうことを目的として、両国の文化と社会に関する一層踏み込んだ研究の出発点となることを目指して開催された。

- ◆〔第1日目〕11月23日（木）は、『労働の世界における女性』（“Mi piace lavorare” 監督：Francesca COMENCINI 邦題「ママは、負けない」2004年）の映画上映会とディスカッション「女性と仕事：法律による保護の限界」が行なわれた。

渥美雅子（弁護士）／岡本太郎（ジャーナリスト、映画評論家）／古賀太（朝日新聞社文化事業部企画委員）／塩野七生（作家）／Gisella DE SIMONE（労働法、ジェノヴァ大学）／Irene BIGNARDI（フィルムイタリア社長、映画評論家）／松本侑壬子（十文字学園女子大学、映画評論家）

- ◆〔第2日目〕11月25日（土）は、「女性と社会—日本とイタリア」と題した日伊会議。

開催にあたって、プログラムでは予定していませんでしたが、急遽、扇千景議員から、貴重なご挨拶を頂きました。

開会の宣言の後、羽入佐和子教授（お茶の水女子大学副学長）と Anna CENERINI BOVA 氏（東京イタリア人女性協会）が、両国の女性の状況に関する統計データの報告を行なった後、第1部から第4部に分けて比較分析を含めて有意義な討論が行なわれた。

- ◇第1部 『女性の生活：比較と歴史の視点から』

円より子（参議院議員）／Chiara SARACENO（家族社会学、トリノ大学教授）／石井クンツ昌子（お茶の水女子大学教授）／司会：小谷眞男（法社会学、お茶の水女子大学助教授）

- ◇第2部 『女性企業家の出会い：二人の経験の比較』

Rosita MISSONI（デザイナー）／森英恵（デザイナー）／篠塚英子（フェミニスト経済学、お茶の水女子大学教授）

- ◇第3部 『女性・労働・家族』

Gisella DE SIMONE（労働法、ジェノヴァ大学教授）／朝倉むつ子（労働法、早稲田大学教授）／松浦千譽（民法、イタリア家族法、拓殖大学教授）／榊原富士子（弁護士）／司会：Cristina IORI（イタリア弁護士資格、東京イタリア人女性協会）

第4部 『全参加者によるラウンドテーブル』

第1部から第3部までの参加者全員が集まり、文化的条件付けと選択の自由のはざまに立つ女性：保護とエンパワーメントに関する両国の女性に関して議論が行なわれた。

総括 原田真由美（読売新聞）

司会 Chiara SARACENO（家族社会学、トリノ大学教授）

羽入佐和子（哲学、お茶の水女子大学副学長）

◆〔第3日目〕11月26日（日）は、『家庭内摩擦と社会的役割の中の女性のアイデンティティー』—現代文学からみた女性の状況—

女性ならではの鋭い視点で、人間心理を描く推理サスペンス『OUT』の著者・桐野夏生氏と Elena GIANINI BELOTTI（作家）氏による、作品『OUT』をもとに両国の現代文学からみた女性の状況について討論が行なわれた。

司会 菅 聡子（近代日本文学、お茶の水女子大学助教授）

Laura TESTAVERDE（東京イタリア人女性協会）